

富 山 国 際 大 学
アクションプラン 2014-2017

2014年3月

富山国際大学アクションプラン 2014-2017 と具体的行動計画

行動指針		アクションプラン	具体的行動計画	担当部局
指針1：学生の成長を保証する教育の実践。	○建学の精神、大学の基本理念を堅持し、人間性・専門性・社会性を向上させる。	(1) 大学の基本理念に沿って、「共存・共生の精神」を磨き、「時代の潮流」に対応できる力を向上させるための教育内容を充実する。	①教養科目の中に「共存・共生へのアプローチ」科目群及び「時代の潮流へのアプローチ」科目群を設け、科目群の趣旨に沿って、それぞれの科目の内容の充実を行う。	学務部（学務委員会教養部会）
			②必修教養科目の中で、「富山国際大学の歴史と基本理念」についての講義時間を確保し、自校教育を開始する。	学務部（学務委員会教養部会）
		(2) 卒業までに達成する学修成果として「人間性の向上」「専門性の向上」「社会性の向上」を保証するために、学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、その達成を保証する教育を実践する。	①学位授与の方針（卒業までに達成する学修成果）や育成する社会人基礎力と授業科目の関係を示したカリキュラムマップを作成し、学修成果の達成度を評価する方法を確立し、評価を行う。	学務部（学務委員会）
		(3) 本学の重視する社会人基礎力として、コミュニケーション力、協働力、課題解決力を伸ばす。	②法定資格・免許等の学修に関わる履修要件及び認定要件を明示し、関係法令通知等に照らし、社会的評価に耐え得る評価を行う。	子ども育成学部（学務委員会）
	(4) 学位授与方針に基づく教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を定め、それに基づくカリキュラムの体系化を図り、教育システムの整備・充実による教育の質保証を行う。	①授業科目の系統性を図示したカリキュラム・ツリーを作成・公表し、学生の系統的な科目履修を促進する。また、科目のナンバリングを導入する。	学務部（学務委員会）	

		<p>(5) 学生の計画的学習を促進するため、各授業科目の到達目標や授業計画など明示したシラバスに基づく授業を実施し、到達目標の達成度に応じた成績評価を行う。</p>	<p>①シラバスには、その授業科目の到達目標や授業計画とともに、学位授与方針や社会人基礎力への寄与や他の授業との関連性、授業外学習の指示等も明確に記述し、授業の行程表として機能するよう内容を充実する。シラバスの記述内容の妥当性について、学務委員会でチェックする。</p>	<p>学務部（学務委員会）及び各教員</p>
			<p>②授業開始時にはシラバスを配布し、その内容を説明して、学生の計画的学習を促すとともに、シラバスに沿った進行を確認しながら授業を進め、到達目標の達成度に応じた成績評価を行う。</p>	<p>学務部（学務委員会）及び各教員</p>
			<p>③成績評価の授業科目間の偏り等について検証しながら、成績評価の客観性や厳格性を担保できるようにする。</p>	<p>学務部（学務委員会）</p>
<p>○学生の主体的学習を増進する授業改革や個別指導・学習支援を行う。</p>		<p>(6) 学生の学習意欲の増進や効果的な学習・理解の促進を図るため、全ての授業科目で対話型授業やグループ学習などの能動的な授業・学習方法(アクティブラーニング等)を採り入れ、授業改革を実行する。</p>	<p>①全ての授業科目で、対話型双方向授業、演習反復型授業、グループ学習、地域フィールドワーク、授業外学習指導や自主学習をはじめ、アクティブラーニング等の能動的学習を促進する授業方法を採り入れる。また、そのための学習環境の整備を行う。</p>	<p>学部及び学務部</p>

		(7) 実学・実務重視型教育を推進し、実習科目の充実と実施体制の整備を行う。	①地域づくり実習や専攻実習の内容を充実させる。	現代社会学部
			②実習指導センターを整備し、実習指導体制を強化する。 ・短大幼児教育学科やみどり野幼稚園との協力体制を強化する。 ・実習指導事務体制を充実させる。	子ども育成学部
		(8) 学生による授業評価や教育支援情報システム等を活用して、学習の進捗度を検証しながら学生自身が成長を実感できる教育改善・充実を行う。	①学生による授業評価を継続実施し、学生の満足度も検証しながら教育改善に役立てるよう、活用を行う。	学務部（学務委員会）
			②「e-ポートフォリオシステム」等の教育支援情報システムへの学生・教職員の入力を促進し、各学生の学習・活動履歴や指導記録などをもとに、学生の効果的な教育・指導に役立てる。	学部・学務部
			③教職課程の「教職カルテ」を、保育士・社会福祉士の養成課程にも導入して、各学生の学習・活動履歴や指導記録などをもとに、学生の効果的な教育・指導に役立てる。	子ども育成学部

	(9) 一人ひとりの学生の力を伸ばすために、個に応じた教育・指導を強化する。	①アカデミックアドバイザー（ゼミ担任）制度も活用し、教養演習、専門演習（卒業研究）等で、各学生の学習状況を把握し、きめの細かい個別指導を徹底する。	学部・学務部
		②基礎学力不足の学生へのリメディアル教育等を実施し、学習支援体制やピアサポート体制を整備する。	学部・学務部
		③新入生への導入教育をはじめ、初年次教育を強化する。	学部
		④外国語、情報、会計関係科目等で、習熟度別指導を実施して、一人ひとりの能力・適性に応じた効果的な教育を行う。	学部
	(10) 授業外を含めた学習時間の増加・確保を図るための学習環境を整備する。	①学生生活アンケート等で学生の授業外を含めた学習時間の実態を把握し、必要な学習時間確保策を講じる。	学務部
		②学生の自主的学習環境（ラーニングcommons等）を整備し、学生同士の学び合いを含めた、自主学習支援体制を強化する。	学部・学務部
		③資格試験や採用試験のための自習室など、自主的学習環境を整備する。	子ども育成学部

指針2：国際性に富み、地域発展に貢献できる人材育成と知の創造・活用	○「富山から海外へ」「海外から富山へ」、活発な学生交流や学術交流をはじめ、グローバルな教育・研究を推進する。	(1) 海外留学・海外研修など、日本人学生の海外体験を重点的に進める。	①毎年10人(学生の1割)の「インターナショナル・プログラムズ」による中・長期留学者を実現する。そのための留学奨励金制度を新設する。(年度計画に基づき2017年度までに実現、奨励金制度は2014年度より実施)	現代社会学部・国際交流センター
			②現代社会学部の日本人学生全員が在学中に海外体験(インターナショナル・プログラムズ、異文化交流、海外ボランティア、海外インターンシップ、海外研修等)を行うようにする。子ども育成学部については、1割程度の学生の海外体験を実現する。	学部・国際交流センター
		(2) 英語をはじめ、中国語・韓国語・ロシア語の外国語能力を向上させるとともに、広い国際的視野や異文化理解を涵養する教育を充実する。	①習熟度別クラス編成などにより、全学生の英語能力の底上げを図るとともに、能力の高い学生の更なる高度化を図る。	学部・学務部
			②英語検定試験(TOEIC, TOEFL)の受験を促進し、TOEIC 580点、TOEFL iBT 60点以上の学生を1割程度に増やす。	学務部・国際交流センター
			③英語に加えて、中国語・韓国語・ロシア語のいずれかを第2外国語として必修とし、その能力の向上を図る。	現代社会学部
			④現代社会学部の「国際交流科目」や子ども育成学部の教養科目などで、国際的視野を広め、異文化理解を深める授業科目と内容の充実を図る。	学部

		(3) 海外提携校を拡大し、学生交流・学術交流などを通じて活発な国際交流を行う。	①海外の提携校を3年後に20校程度(現在は15校)に増やす。	現代社会学部・国際交流センター
			②海外及び国内の提携校との学生交流や教員交流を促進する。	現代社会学部・国際交流センター
		(4) 外国人留学生を積極的に受入れ、在学中の支援を強化する。	①10月入学(秋入学)を実施し、優秀な学生の確保と新たな協力校の拡大を行う。現代社会学部での外国人留学生(長期・短期)割合を15~20%を維持する。	国際交流センター・入試センター
			②外国人留学生は全員、卒業までに日本語能力検定1級の取得できるよう支援し、8割の達成を目指す。	現代社会学部・国際交流センター
			③チューター制度の活用や新たな交流事業の実施により、外国人留学生と日本人学生の交流を促進する。	国際交流センター
			④卒業後の大学院進学や日本系企業への就職の促進を図る。2016年度までに2割の達成を目指す。	国際交流センター・キャリア支援センター
		(5) 東アジア地域の交流拠点として、様々な交流事業を推進する。	①東アジア地域の海外提携校とも協力して、国際交流シンポジウムの開催や学術交流事業などを推進する。	国際交流センター
			②東アジア地域と経済交流を行う企業等との連携を強化して、海外でのインターンシップや外国人留学生の研修や就職等促進する。	キャリア支援センター
			③年間の国際交流活動年報を作成する。	国際交流センター

○地域との連携・協働を促進し、「地域に役立ち、地域に学ぶ」教育・研究や地域貢献事業を推進する。	(6) 産業県・教育県富山の強みや豊かな自然環境など、富山の豊富な教育資源を活かして、地域(富山)をフィールドとした実習や授業を推進する。	①「地域づくり実習」、「地域社会参加活動」、「とやま地域学」をはじめ、各学部の地域関連科目や実習・演習・特別講義等において、富山県の企業・施設・事業所・団体等との連携や自然環境等を活用して、地域フィールドワークや地域理解・地域課題探究活動を積極的に実施する。	学部・学務部
		②現代社会学部の各専攻の実習科目では、地域の企業・団体等とも連携して、長期インターンシップやPBL型学習などを実施する。	現代社会学部各専攻
		③子ども育成学部の資格・免許取得へ向けた実習科目等では、富山県内の施設・事業所等の協力を得て、現場における効果的な実習を行う。	子ども育成学部
		④卒業研究(専門演習)では、地域課題解決型テーマや地域での調査活動等を取り入れた研究を積極的に実施する。	各学部及び各教員
	(7) エクステンションカレッジの公開講座や市民聴講生制度の充実など、県民が本学の教育・研究成果などの知的資源を知り、活用できる取組を進める。	①県民に役立つ、魅力ある講座を提供し、C i Cサテライトオフィスでの受講を促進する。	地域交流センター
		②現代社会学部の各専攻や子ども育成学部の各専門分野の特色や教育・研究成果等をアピールする講座を順次実施し、本学の活動について地域の理解を得るようにする。	学部・地域交流センター
		③「地域社会出講プログラム」「高校出講プログラム」の継続・推進、地域と結んだ遠隔授業・講座の実施や連絡網の整備を行う。	学部・地域交流センター

	<p>(8) 県内の自治体や企業・学校・施設・事業所・諸団体との双方向的連携を進める。</p>	<p>①富山県及び富山県教育委員会、富山市教育委員会など各自治体や関連機関と、連携協定の締結を含む連携強化を図る。</p>	<p>(企画本部・学部・地域交流センター</p>
		<p>②富山市や富山第一銀行との定期協議を行い、連携協定の実質化を図る。</p>	<p>企画本部・学長室・総務課・地域交流センター</p>
		<p>③富山県経営者協会、富山市商工会議所、コラボ産学官富山支部、富山県社会福祉協議会等の会員としての活動の強化をはじめ、県内の企業・団体等との双方向的連携を強化する。</p>	<p>学長室・地域交流センター・学部</p>
		<p>④県内の教育・福祉・保育の学校・施設・事業所・行政等との連携を促進し、教育・福祉・保育の向上に貢献する。</p>	<p>子ども育成学部</p>
		<p>⑤「大学コンソーシアム富山」を通じた県内大学との連携や県内高校との高大連携事業を促進する。</p>	<p>学務部・学長室</p>
		<p>(9) 地域課題解決への取組を推進し、地域の活性化や教育・福祉・文化の向上に貢献する教育・研究や事業を推進する。</p>	<p>①学生も参加して、県内の街づくりや県内中小企業の活性化、県内観光の発展や自然環境保全や自然エネルギーの活用などに貢献する事業を推進する。</p>

			②少子高齢化と人口減少、児童生徒の健全育成、地域福祉コミュニティの構築など富山県及び県内市町村の地域課題の解決に向けての共同研究や事業連携を推進する。	子ども育成学部
	(10) 県内高校等と連携した高大連携事業を推進する。		①「高校出講プログラム」を継続・推進など、県内高校生の学習増進のために本学の知的資源・教育資源の活用を促進する。	学部
			②高校から大学への円滑な教育接続について、県内高校等との連携を行う。	学部・入試広報課
			③付属高校との教育連携を推進する。	学部
	(11) 大学の地域連携体制を整備し、地域との連携・協働する機能を強化する。		①地域交流センターが大学の地域連携の拠点として機能し、富山短期大学を含む富山国際学園の地域連携センターとの一体的連携を図るための組織体制を整備する。	企画本部・学長室・地域交流センター
			②文部科学省のCOC事業など、地域連携を促進するための外部資金獲得に努める。	企画本部・学長室・地域交流センター
			③子ども育成研究交流センターと現代社会学部の地域研究交流センターの機能を強化し、地域との研究交流を促進する。	学部・地域交流センター
			④年間の地域交流活動の年報を作成する。	地域交流センター

<p>指針3：活気が溢れ、個性を伸ばせる学生生活への支援やキャリア形成。</p>	<p>○快適なキャンパス環境を整備し、充実した学生生活を支援する。</p>	<p>(1) 図書館利用の促進や図書館内学習環境の整備・充実を行う。</p>	<p>① 図書館利用状況（月別利用状況、貸出数）を把握するとともに、有効な図書情報の提供や利用環境の改善を行い、利用者増加への取組を強化する。</p>	<p>図書館</p>
			<p>② 学生のニーズに対応した図書コーナーの設置や年度別充実計画に基づく図書充実を行う。</p>	<p>図書館</p>
			<p>③ 図書館システムの効果的な改善（更新）を行うとともに、情報化図書館への適切な対応を検討・実施する。</p>	<p>図書館</p>
			<p>④ 呉羽キャンパスの図書館（短大と共用）の利用環境の改善を図る。</p>	<p>子ども育成学部・図書館</p>
	<p>(2) 学内情報化を促進し、メディア情報機器を活用した学習・情報提供サービスを充実・整備する。</p>	<p>① 学生掲示板の電子化やHP・Eメール・携帯等での情報提供を促進する。</p>	<p>情報センター・学務部</p>	
		<p>② キャンパス間やC i Cサテライトを活用した遠隔授業を活用する。</p>	<p>情報センター・学務部</p>	
		<p>③ ICカード付き学生証を導入し、その利活用を推進する。</p>	<p>情報センター・学務部</p>	
		<p>④ 図書館と情報センターを図書館・情報センター（仮称）に統合する。</p>	<p>図書館・情報センター</p>	

	(3) 充実したキャンパスライフを支援するための設備・環境を整備する。	①東黒牧キャンパスの設備・環境整備・・・厚生棟リニューアル、中庭・芝生広場整備、講義室内改善、花と緑の空間づくり、冷暖房設備改修、だべりんぐ環境創出（予算を確保し逐次実施、現代社会学部）	現代社会学部
		②呉羽キャンパスの設備環境整備・・・研究室へのダイヤルイン化、E館の効果的利用の促進、ブルーレイ対応の機器整備、融雪装置の整備、ゼミ室・中教室など必要な教室の確保（予算を確保し逐次実施、子ども育成学部）	子ども育成学部
		③東黒牧キャンパスの環境を活用し、四季を通じたイベント開催など楽しいキャンパスづくりを行う。また、キャンパス周辺の里山整備事業を、外部団体と協力して、学生参加のもとで継続実施する。	現代社会学部・学務部
		④大学空間や施設の地域への開放を促進する。	企画本部・地域交流センター
	(4) 学生の自主的活動を奨励・促進し、クラブ・サークル活動の活性化を支援する。	①「夢の架け橋」事業の充実し、学生の自主的な取組を奨励する。	学部・学生課
		②学生のボランティア活動を促進する。子ども育成学部では、学生ボラティア支援体制を整備する。	学部・学生課

			③学友会活動や大学祭の活性化を支援する。地元自治会等との連携をはじめ、地域との協力関係も推進する。	学部・学生課
			④クラブ活動の活性化への支援と運動クラブ支援の選択と集中を行う。 ●吹奏楽団・合唱団の活動強化（子ども育成学部）、吹奏学部の指導体制改善 ●トレーニング室整備・充実、部室・サークル室の整備 ●諸活動特待生制度の改善	学部・学生課
	(5) 通学の利便性を確保する。		①シャトルバスの運行を継続し、東黒牧キャンパスへの通学の利便性を確保する。富山駅からのシャトルバスの運行も検討する。	現代社会学部・学生課
			②学園内の連携により、呉羽キャンパスのバス利便性向上と併行在来線新駅設置へ向けた活動を強化する。	子ども育成学部・学生課
			③呉羽キャンパスの学生駐車場を整備・拡充する。	呉羽キャンパス事務室
	(6) 学生への生活指導を徹底・強化する。		①アカデミックアドバイザー制度や教養演習、専門演習（卒業研究）等を活用して、学生の生活指導を強化する。	学部・学生課
			②障がい者をはじめ特別な支援が必要な学生への支援体制やピアサポート体制を整備する。	学務部・学生課

			③交通安全運動の継続・強化し、交通事故を防止する。	学務部・学生課
			④不適応学生支援チーム（学生生活に困難を抱える学生を支援する体制）を整備・強化して、休学や退学を予防する。	学部・学務部・教務課
			⑤後援会や同窓会との連繫を強化する。	学部・総務課
		(7) 各種奨学金制度の整備・充実を行う。	①日本人学生の「インターナショナルプログラムズ」による中長期の留学を奨励・促進するため、月4万円程度の留学奨励金制度を設置する。	現代社会学部・国際交流センター
			②特別奨学生制度や諸活動特待生制度について、有効性や費用対効果の観点から検証し、見直しを行う。	学務部・企画本部
			③成績優秀者や諸活動優秀者に対する奨学制度を拡充する。	学務部
○「なりたい自分」になれるよう、キャリア支援・就職支援を行う。	(8)「なりたい自分になれる大学」(本学のキャッチコピー)を目指し、学生が「なりたい自分」を探し、追求し、実現することを支援する。	①「なりたい自分」意識調査(なりたい自分像や職業像、進路希望等)を毎年実施し、学生の目的意識の高揚を図る。	学務部	
		②教養演習や専門演習(卒業研究)等を通じて、個別の「なりたい自分」の追求度や進路希望等を把握し、その実現への支援を行う。	学部・学務部	

	(9) 「社会へつなぐ学び」を通して、学生のキャリアアップを支援する。	①「キャリアデザイン講座」「キャリア支援講座」等の正課内でのキャリア教育を充実・強化する。	学部、キャリア支援センター
		②正課外でのキャリア形成支援を充実・強化する。	キャリア支援センター
		③「e-ポートフォリオシステム」等も活用し、学生の自己理解や自己啓発を支援する。	学務部・キャリア支援センター
		④職業に関する意識や社会的マナーの醸成、読み・書き等の国語力の強化に努める。	学部・キャリア支援センター
	(10) 各種資格獲得のための支援を強化し、取得率を向上させる。	①ワード検定・エクセル検定・ビジネス検定 3級を全員が取得し、更に上級の検定を取得することを支援する。また、専攻分野に応じた資格取得を支援する。(現代社会学部)	現代社会学部
		②小学校教諭一種免許、幼稚園教諭一種免許、保育士資格、社会福祉士国家試験受験資格の複数取得を支援し、高い取得率を維持する。社会福祉士国家試験合格者を増やす。(子ども育成学部)	子ども育成学部
	(11) 国内・国外でのインターンシップへの参加を促進し、職場体験を通して就業意欲を増進する。	①在学中に全学生がインターンシップ(長期インターンシップ型実習を含む)に参加することを促進する。(現代社会学部)	現代社会学部

			②「地域社会参加活動」(必修)の充実を図り、全員が「とやまに学ぶインターンシップ」(選択)を履修するか、または「自主研修」を体験する。(子ども育成学部)	子ども育成学部
			③海外インターンシップへの参加者を毎年3名以上にする。	学務部・国際交流センター
	(12) 専門職就職対策を強化し、希望者全員の就職を実現する。(子ども育成学部)	①卒業生の9割以上が専門職として就職するようにする。(子ども育成学部)		子ども育成学部
		②各種事業所や施設との就職懇談会を開催する。(子ども育成学部)		子ども育成学部
	(13) 公務員就職対策の強化を図り、公務員就職者を増やす。	①小学校・幼稚園保育所・社会福祉の各分野で、公務員就職者を直近の実績平均を上回る成果を挙げる。(子ども育成学部)		子ども育成学部
		②公務員志望者を組織化し、対策講座を充実して、公務員就職者を直近の実績平均を上回る成果を挙げる。(現代社会学部)		現代社会学部
	(14) 銀行、国際系企業、その他有力企業の就職促進に向けた対策を強化する。	①有力企業への志望者を組織化し、対策講座を充実して、就職者を直近の実績平均を上回る成果を挙げる。(現代社会学部)		現代社会学部
	(15) パソコン必携化を活用した情報スキルの向上とそのための環境整備を行う。	①パソコンの授業内及び授業外での活用を促進し、日常的利用を習慣化する。		情報センター・学部
		②キャリアアップの一環として、パソコン活用を通じた情報スキルの向上を促進する。		情報センター・学部

指針4：ブランディングと情報発信の強化と多様な学生受入れの推進。	○大学のブランディングを強化し、積極的な情報発信と広報活動を展開する。	(1) 地域に愛され、必要とされる大学になるよう、地域での存在感を高める活動を強化し、富山国際大学ブランディングを明確にする。	①「共存・共生」や「時代の潮流」、目指す学習成果、国際化への対応、観光・環境・経営情報、教育・保育・福祉のハイブリッド、少人数教育など本学の教育・研究の特色を明確化し、鮮明にアピールする。	学部・学務部・入試広報課
			②「なりたい自分」を実現した例や地域で活躍する卒業生の姿などを含め、本学の教育実績や就職実績などの成果を積極的にアピールする。	学部・学務部・入試広報課
			③多彩な国際交流活動、地域社会に貢献する教育・研究活動や地域社会との連携・交流活動を強化し、その成果を鮮明にアピールする。	国際交流センター・地域交流センター・学長室
			④地域の人材育成に貢献してきた50年の歴史と伝統を踏まえ、北陸屈指の私立総合学園としての富山国際学園の役割を明確に打ち出す。	企画本部・学長室
			⑤本学のブランディング戦略の明確化を図る。	企画本部及び学長室
	(2) 富山国際大学の活動や実績をアピールし、ステークホルダーを意識した広報活動を強化する。	①ホームページや新聞・テレビ・ラジオなどのメディアを通じた広報活動や各種媒体を使った広告活動を強化する。	入試センター	
		②オープンキャンパス等の大学開放事業の効果的实施を図るとともに、高校生や保護者向けのDM等による広報活動を強化する。	入試センター	
		③大学専用アプリやAR機能を利用したスマートフォンによる広報対策を強化する。	入試センター	

			④情報誌「TUINS」や「TUINS 情報」等の内容の充実と効果的な活用を行う。	入試センター
			⑤入試ターゲット別の効果的な受験雑誌への参画を行う。	入試センター
		(3) 大学情報の発信機能を強化し、活動の見える化を促進する。	①大学ホームページの内容を充実させ、機動的な更新体制のもと情報の発信力を強化する。	入試センター
			②大学活動の新聞・テレビ・ラジオ等への掲載を促進し、マスメディアを通じた情報発信を強化する。	入試広報課
			③「大学ポートレート」等を活用して、大学情報の公表を促進し、説明責任や透明性を確保する。	学長室 I R チーム・総務課
○入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）に沿って、幅広く、意欲のある学生の受入れを促進する。	(4) 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）に沿った多様な入学試験の実施に努め、安定的に学生を確保する。	①年度毎に入学定員を超える学生を確保し、3年後に収容定員を満たすことを目標とする。	学部・入試センター	
		②基礎学力とともに、面接や小論文等も重視し、本学で学ぶ基礎的能力と意欲を重視した入学試験を実施する。	入試センター	
		③効果的・効率的な入試制度・実施体制の整備を図る。入試広報の執務拠点について、富山短期大学の入試広報との一体化を含め検討する。	企画本部・入試センター	

		(5) 本学教育の特色とともに、「学びやすい富山」「暮らしやすい富山」「将来性のある富山」をアピールし、県内外での幅広い学生募集・広報活動を行う。	①北陸新幹線開業を期に、北信越地域をはじめ県外への広報活動も強化する。	入試センター
			②サテライトを活用した高校生への進学相談会やセミナーを開催する。	入試センター
			③ウィクデイ・キャンパス・ビジットの実施について検討を進める。	入試センター
			④付属高校との連携を強化し、毎年安定的に学生を確保する。	入試センター
指針5：教育力・研究力の強化と健全な大学運営。	○教職員の職能向上を図り、教育力・研究力と教学組織の強化を推進する。	(1) 教職員の研修(FD・SD活動)を強化し、教育力の向上と教職協働による教学組織の活性化を推進する。	①授業改革に役立つFD研修を実施し、互見授業を推進する。	学務委員会FD部会
			②授業改善促進へ向け、学生の授業評価の活用や優れた授業への顕彰の実施等を行う。	学務委員会
			③教職協働の強化へ向けたFD・SD研修等の取組を推進する。	総務課・学務部・学長室
			④職員の能力開発のためのSDを推進する。	総務課・学長室
		(2) 教員の研究力強化と研究環境の改善を行う。	①環境、観光、経営情報分野の研究(現代社会学部)や教育・保育・福祉分野(子ども育成学部)をはじめ、教員の専門分野に応じた研究活動の活性化を図る。	学部
			②「子ども育成学」の構築と富山国際大学子ども育成学会の立ち上げを行う。	子ども育成学部

			③科研費や外部研究資金への応募を促進する。	企画本部・学長室
			④教員の研究時間の保証をはじめ、研究環境の改善を図る。	学部
○大学マネジメント体制を強化し、健全で機能的な大学運営を行う。	(3) 各部局や教職員個人の活動改善を図るため、計画 (Plan)・実行 (Do)・評価 (Check)・改善 (Action) のPDCAサイクルを機能させる。	①アクションプラン達成のための全学の年間活動計画を立て、それに基づく活動を行い、その活動成果を基に自己評価を実施する。	企画本部・学長室	
		②学部長や部長・センター長などのリーダーシップのもと、各部局の年間活動計画を立て、それに基づく活動を行い、活動成果の年度毎自己評価を実施し、活動改善に役立てる。	各部局・センター	
		③各教職員が教育、研究、組織運営 (学内業務)、社会貢献の活動について年間活動計画を立て、それに基づく活動を行い、活動成果の年度毎自己評価を実施し、活動改善に役立てる。	各教職員	
		④教職員の個人評価制度の改善を行い、評価結果の活用を行う。	学長・学部長	
	(4) 学長のリーダーシップのもと、大学の教学マネジメント体制を強化し、内部質保証による健全で効果的な大学運営を行う。	①企画本部と学長室の連携により、企画力を強化する。	企画本部	
		②入学から卒業・就職までの各種データの一体的整備を行い、IR活動体制を整備し、IR活動を強化する。	学長室・IR活動チーム	

			③認証評価基準に基づき、年度毎自己評価を実施し、次回認証評価受審（2017年度）へ向けた準備活動を強化する。	自己点検・評価委員会、学長室
			④社会の要請や地域のニーズに対応して、学部・学科のあり方や入学定員の見直しや内部組織の見直しを図り、効果的な組織運営を行う。	企画本部・学長室
	(5) 外部資金の導入をはじめ、財政基盤を強化する。		①外部資金や競争的資金の安定的な確保を図り、財政基盤を強化・確立を促進する。	企画本部・学長室・総務部
			②学長裁量経費などを活用し、教育・研究経費の重点的・効果的配分を行う。	学長室・総務課
			③コスト意識の徹底及び費用対効果を考慮した効率的で効果的な財政運営に努める。	総務課・学長室
	(6) 安全・安心な大学づくりを目指した危機管理機能の整備を行う。		①福利・厚生施設等を充実し、学生生活の質の向上や居心地のよいキャンパスづくりを行う。	学務部・学生課
			②自然災害の被害を最小限に抑えるキャンパス環境を整備し、防災訓練の実施に努める。	総務課
			③適切なセキュリティの確保策を講じる。	学長室・情報センター
			④危機管理マニュアルを策定し、危機管理体制を確立し、危機管理意識を徹底する。	企画本部・学長室・総務課

	(7) 事務局体制を整備し、事務の効率化を促進する。	①多様なニーズに対応できる柔軟性のある人材や高い専門性を備えた人材を育成する。	事務局
		②効率的な業務運営を推進するため、柔軟な組織編成をする。	事務局
		③透明性、公平性の高い人事制度を整備する。	事務局
		④学園内事務体制一元化を図るなど、学園内の事務機構改革に取り組む。	事務局
	(8) 学園内教育機関の連携・協力体制を強化する。	①教育面での連携・協力を強化する。	学園本部 事務局
		②学園内での教職員の兼任や異動の促進を図る。	学園本部 事務局